



# 国際ロータリー第2790地区

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH



## 千葉南ロータリークラブ会報

〔創立〕1964年3月2日

〔例会日〕毎・金曜日12時30分

〔例会場〕オークラ千葉ホテル

〔会長〕齋藤 昌雄

〔幹事〕植松 省自

〔会報委員長〕永安 重治

〔事務局〕〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎043-245-3204)

### 第2415回

平成25年8月9日(金) 点鐘12:30 <晴れ>

◇ロータリーソング『我等の生業』

◇四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

#### ◆お客様紹介

・本日のゲストスピーカー／

寒川神社 宮司 粟飯原 順胤様

・千葉RC／藤澤 武彦様

#### ◆会長挨拶及び報告 齋藤 昌雄会長

8月4日(日)、千葉南RC恒例となりました「第11回国際里山の集い」に会員ご家族他、たくさんの方のご参加をいただき開催されました。当日の天候は、曇りながらたいへん暑かったのですが、金親会員が例年よりも広い場所の下草を刈っていただいていたお蔭で、当初予定していた時間よりかなり早く終わりました。草刈後に場所を移動して、懇親会バーベキューパーティーに入り、大変楽しく最後まで盛り上がりました。帰りに元米山奨学生で中国の若い夫婦を駅まで送って行きましたが、留学がきっかけで結婚されたそうです。奨学生時代は銚子に住んでいて、今は埼玉に引っ越されていますが、日本の中で特に千葉県が大好きで、当日は4回乗り換えて会場まで来てくれたそうです。駅で別れるとき、彼らは「日本が大好きでこれからも日本に住んでいきたい。また来年も是非来ます。本当に有難うございました」と、何度もお礼を言われ、すごく良い気持ちで帰ることができました。

当日は、朝早くから準備をされた金親会員、スタッフのみなさん、また、塩谷会員、竹尾会員は道案内の看板設置に当たられました。里山会場テント設営、懇親会会場設営をしていただいた親睦委員会のみなさん、本当にお疲れさまでございました。お蔭様で素晴らしい「里山の集い」になりました。今回参加されなかった方も是非来年は参加されて

はいかがでしょうか。

次は、来週例会がお盆で休会ですが、再来週はガバナーの公式訪問があります。関口ガバナーは、今までとは違って、活動計画書を読むなどはせず会員と意見交換をしたい、特にそのクラブの欠点短所について意見交換をしたいと話されています。当日は各委員長さんだけではなく新しい会員のみなさんにも是非時間を作って参加していただければ、ロータリーとは何か、ロータリーの目指していることについて関口ガバナーから話しが聞けるのではないかと思います。

#### ◆委員会報告

<社会奉仕委員会> (塩谷 邦昭委員長)

7月24日、橋口さんと竹尾さんと私で「ひかり学園」を訪問してきました。前回の例会にひかり学園の方々が見えて皆さんにお願いされましたが、改めて二つのお願いがございます。まず、ひかり学園収穫野菜の買い上げ協力をお願いします。昨年の実績を申し上げますとお米が190kgです。30kg1口、10kg6口、5kg14口、3kg10口で87,200円、野菜パックは106袋106,000円、自然薯が7本14,000円、合計207,200円です。40周年記念の時に当クラブが中心となって、中古のトラクターをひかり学園へ寄贈しました。これを入所している人たちが使って契約農家と協力して作物を作り、私たちが買い上げたり、道の駅などに出荷されています。今年も、買い上げの協力をさせていただくために資料を配布していますのでよろしくお願いします。

二つ目は、「いきいきフェスタ TAKO」開催のご案内で、11月23日(土)に開催されます。ここで、ひかり学園の父兄の会がバザーを出店し、我々から提供する寄付品物が販売されて入園者の活動資金になります。大量であるとか大型の物はひかり学園から取りに伺うことも可能です。皆様の家庭、会社に眠っている贈答品等の寄付を是非お願いします。

<国際里山の集い報告> (金親 博榮会員)

当日は60人の参加をいただきました。留学生のグループが5グループ11人、第11分区四街道RCからも参加いただきました。お蔭様で、天候にも恵まれ怪我もなく終えることが出来ました。ロータリークラブの周知に少しでも寄与できればという気持ちで実施しておりますが、皆様のご協力有難うございました。

<会員増強委員会> (鈴木 美津江副委員長)

8月2日に特別会員増強委員会を開きました。会員増強の体制については、2班に分けて特別会員増強委員会を立

ち上げております。1班は、北原委員長が班長、出井会員が副班長、2班は、私が班長、副班長が塩谷会員です。毎月、第1例会終了後の13時40分より、定例の委員会を開きます。議題は現状報告と対策です。目標として、理事及び特別会員増強委員会委員は、1名以上の増強を目標とします。尚、紹介カードをメールボックスに入れてありますので、今月中に提出してください。もし、紹介者がいない場合は、「なし」と書いてご提出ください。

会員増強目標は、今期10名で、創立50周年記念式典の4月4日を50名で迎えるために、平成26年2月28日(金)までに50名会員を達成するということから、全会員が会員増強を心掛けていただきたく、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

### ◆幹事報告 植松 省自幹事

来週は、定款により休会です。23日は、ガバナー公式訪問ですので一人でも多くの会員に出席いただきたいと思います。例会後は、クラブ協議会ですので各委員長の他新入会員をはじめ多くの皆様のご出席をお願いします。

活動計画書を配布しました。校正については万全を期しているつもりですが、万一誤字等の誤りがありましたら事務局か私までご連絡いただければ幸いです。

### ◆ニコニコボックス報告

#### 〈齋藤 昌雄会長・植松 省自幹事〉

栗飯原様、本日の卓話、宜しくお願い致します。寺澤さん、いつも沢山の写真を有難うございます。活動計画書が出来上がりましたので、メールボックスに入れておきます。

#### 〈村田 紀之会員〉

寒川神社・宮司栗飯原様ようこそお越しくださいました。本日の卓話、宜しくお願い致します。



重臣で下総の名族といわれた千葉氏が、一族の守護神として祀っていた妙見尊の祭礼として、千葉郷あげての大祭を開催したことに由来し、その創始は大治2年(1127年)と伝えられています。その祭礼は旧暦7月1

6日から22日の7日間、現在の8月16日から22日までにわたりましたが、その期間中の20日に妙見様のご加護によって豊漁を祈る寒川村の氏子の手によって「御浜下り」がおこなわれました。当時は遠浅だった出洲海岸の妙見洲(現在の出洲港土木事務所付近にあった浅瀬)で寒川の若衆の奉仕により神輿を海中に渡行したといわれています。(資料②)この「御浜下り」には「千葉舟」と「寒川舟(別名結城舟)」と言う舟形の山車を曳き出しました。当時の千葉は鎌倉に次ぐ関東第2の都市であったことから、それにふさわしい壮大な祭礼が行なわれていたと伝えられています。

寒川舟(結城舟)ですが、神輿とともに神幸行列に千葉舟と加わっていたと言われております。この寒川舟の舷側(げんそく)に飾っていたのが資料①の幕です。結城舟は、天福元年(1233年)に始まったと伝えられていますが少なくとも江戸時代末期まで祭礼に登場していました。

また、由来伝承によりますと延喜3年の「寒川村差出帳」に祭礼に関する記載が残っております。差出帳には「千葉妙見の祭礼に仕立てる船が1艘あり、その船の規模が長さ3間半・横2間半で破損した場合の取り決めと毎年旧暦7月20日と22日に寒川村と千葉町が共に祭礼をつとめる」と記してあります。この資料①の幕は、江戸時代末期の嘉永3年にそれまでの幕にかわって新調されたもので、長さ15、4メートル、幅が78～79センチあり船首にあたる部分には、千葉氏の家紋「月星」と「九曜紋」が飾られています。この幕の裏には寄進に携わった氏子の名と、この幕を寄進するために氏子が「1日1銭を蓄えた」という由緒などが記されており、当時の氏子の祭礼にかける思い入れを伺うことができます。この幕は、昭和45年頃に当神社の神輿庫にしまっていたものを出して今は郷土博物館の方で保管してもらっています。その船頭を務める者は祭礼の最名誉職で、麻の襷に縮緬(ちりめん)の褌(ふんどし)で舟の上から指揮をとったと伝えられていました。しかし、月日が経つとともに結城舟という山車があったということは寒川の人々から忘れさられ、祭礼の様子も時代とともに様変わりしてしまいました。先ほどから出てきております「結城」とは、中世には寒川を「結城」といい、寒川中心とした都川河口部一帯を「結城野」と称しました。

「御浜下り」の話に戻りたいと思います。妙見様のお祭りに寒川の若衆が奉仕をして神輿を海中に渡行させていた「御浜下り」は、昭和の戦後に寒川神社が神輿を新調したのをきっかけに、寒川神社の例祭として行われるようになりました。8月20日深夜に行われていた、この「御浜下り」は出洲海岸が埋め立てられる昭和30年後半まで行われ、寒川に生まれたものの誇りになっていました。白砂青松(はくしゃせいしょう)の出洲海岸に立つ大鳥居から、立ち並ぶ提灯の明かりに怪しく輝く神輿が海中に渡行する様は、まさに圧巻の一言であったそうです。

寒川地域には、昔から伝えられている幾つかの伝承があ

本日のニコニコボックス	3,000 円	累計	254,000 円
金の箱	481 円	累計	2,559 円

### ■出席報告 (会員数42名)

出席者数29	欠席者数13	ビシター 2	修正出席率 100%
--------	--------	--------	------------

### 千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい。](#)

千葉RC	月	8/26	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	—	センシティブ「東天紅」
千葉幕張RC	火	9/10	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	—	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水	8/28	ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	—	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	8/29・9/12	京成ホテルミラマーレ

## 〈本日の卓話〉

演題⇒ 『寒川神社<御浜下り>について』  
卓話者⇒ 寒川神社 宮司 栗飯原 順胤 様

御浜下りとは古来千葉神社の祭礼において、「御浜下り」という神事が執り行われておりました。これは、鎌倉幕府の

ります。まず、「妙見様」や「妙見洲」について、「妙見様が海に入らないと漁がない。」といった伝承であります。さらに、寒川地域の人々は、妙見洲には主の亀がいると信じられており、「亀が網にかかると縁起がいいので、お酒を飲まして海に帰してやれ。」とか「亀はお酒が好きだから、亀が網にかかったらお酒を飲まして海に帰してやれ。」といった亀を神聖視した伝承があります。これらの伝承は、全て妙見信仰に基づく伝承であります。

また、北極星や北斗七星は漁師が海で方向を見失った時に、方向を教えてくれる大切な星でありました。千葉妙見の御神体である妙見菩薩は、北方に配する水の神「玄武」(蛇が巻き付いた亀)や霊亀の上に乗る像容を特徴の一つとしており、亀は千葉妙見にとって重要な乗り物であるとともにお使いでありました。寒川在住の元漁師であった古老の方々は、昔、実際に体長が一メートルほどの亀が網にかかった時に、亀は妙見様のお使いだから習わし通りお酒を飲ませて海に帰してやったということです。

これらの「妙見様」・「妙見洲」・「亀」にまつわる伝承は、銚子市妙見町・川口町・長崎町・名洗町および海上郡飯岡町の「亀の子大神」(妙見社)の氏子である銚子や飯岡町の漁師の間に、亀が網にかかったりするとお酒を飲ませて海へ帰してやる習わしや亀を大事にすると大漁や縁起のいいことがあったという伝承と同様と思われる。また、「妙見様が海に入らないと漁がない」という伝承から、寒川の人々にとって妙見は大漁や豊漁をもたらす神、つまり豊穰神として篤く信仰されてきたことがわかります。

当神社で有名なのは「お化け神輿」といわれた大神輿です。終戦後に寒川神社初代神輿を新調したときに「神社側が台寸で注文したものを胴寸と取り違えて制作した」という話が残るほどの大きい神輿でした。「初渡行のときに、200人の怪我人を出した」とか「寒川の旧道で転回ができずに、民家の戸袋や塀を壊してやっと思った」などの様々なエピソードが残っています。なお、この「お化け神輿」があまりの大きさと重量のために渡行できなくなったために代わって新調されたのが先代の神輿で、猪鼻山の千葉市立郷土博物館にあります。また、出洲海岸に立っていた石の大鳥居は出洲海岸の埋め立てと同時に寒川神社に移されましたが、地震によって破損したため、破棄してしまいました。出洲海岸が埋め立てられた後は出洲港から御座船に神輿・大太鼓・役員が乗って千葉港内を1周し、沿岸地域の安全祈願をしながらまわりました。このお祭りは大太鼓も登場します。(資料④)

この頃には、若衆にとって花形は神輿よりむしろ太鼓でした。揃いの浴衣を片肌脱ぎにして花笠を被った若衆が、削り出した自慢の「ぶち」で力を競いました。漁師町だった寒川の若者は、この太鼓の皮を叩き破ることを誇りとしていました。年番の町会が太鼓の片方ずつを占有し、どちらが早く太鼓の皮を叩き切るか町内どうして競い合いました。当時は若衆が多かったため、叩く順番も籤引きで1回叩くと半日は順番が回ってこなかったといえます。若衆はこの日のために1か月も前から電柱や古タイヤを叩いて毎日練習したといわれています。

そして、平成11年に当神社の役員・青年会が御浜下りを復活させようとポートタワー下の人工海岸において御浜神

事を行って氏子崇敬者の安全を祈願し、浜辺で神輿の渡行を行いました。(資料③)この年は、海には入らず翌年の祭にて慎重を期して海への進入は膝の深さまでという制限をつけて渡行を行いました。今年で14回目になる御浜下りも安全を期しながら夕刻に行われるようになり、胸ぐらいの深さまで入るようになりました。平成23年には、千葉市無形文化財にまで認定までされました。

当神社は千葉市中央区寒川町1丁目123番地鎮座しており、ご祭神は、寒川比子命様・寒川比売命様の夫婦の神様です。相殿として天照皇大神様を祀っています。ご創建ですが、度重なる火災で古い記録がすべて焼失したため、残念ながらご創建の年代は明らかではありません。境内神社は、7社を祀り、境内には銘文から正徳2年(1712年)に奉納された手水石や延喜元年(1744年)に奉納された石鳥居があります。

現存する最も古い資料としては、ご神宝の獅子頭に文明13年(1481年)に社殿と獅子頭を修復した旨の銘がありますので、創建はこれ以前であると考えられます。また、延喜年間(905年頃)に編集された延喜式神名帳には、下総国千葉郡に「寒川神社」の記載が見えますので、これが当社であるとすれば、創建年代はさらに遡ることとなります。しかし、これについては歴史学者や郷土史家等が様々に考察を行っておりますので定かではありません。

ご由緒ですが、当社は古くから海の神として崇敬され盛んに信仰を集めました。当社の沖を船で航行するものは「礼帆(れいはん)」といって帆を半ばまで下して敬意を示し、社前を馬で通行するものは必ず馬を下りて下馬の礼をとったと伝えられております。

当社の霊験あらたかさを伝える話として、獅子頭に関する言い伝えがあります。その昔、漁師の投げ込んだ網にこの獅子頭が入ったので、それを神社に祀ると神社の沖合を航行する船の沈没が相次ぎました。これは獅子頭の祟りであろうと、社殿の下に石室を造って封じ込めたところ、海難事故がびたりと止んだといわれております。この獅子頭ですが桐で作られた漆塗りで、法隆寺に伝わる獅子頭に様式が似ており制作年代は鎌倉時代であるとする説があります。また、獅子頭は通常2体で1組ですが、宇治平等院にこれに酷似した獅子頭が1体存在すると伝えられております。この獅子頭の内側には朱漆の銘があり、千葉一族の原氏が、文明13年(1481年)に社殿再建と獅子頭の修復をしたことが記されております。(文責 永安 重治会員)



#### 第2416回例会

<ガバナー公式訪問>

日時⇒ 平成25年8月23日(金) 点鐘12:30

卓話⇒ 『ガバナーご挨拶』

卓話者⇒ 国際ロータリー第2790地区

ガバナー 関口 徳雄様

#### 第2417回例会

日時⇒ 平成25年8月30日(金) 点鐘12:30

卓話⇒ 『心と体と肌と』

卓話者⇒ ポーラ化粧品 所長 プレイングマネージャー

宮下 友里子様

